

# 少人数教育の充実に向けた取組

【会津教育事務所】

学 校 名	喜多方市立第三中学校
学年・教科等	全学年・国語、数学、英語

## タイトル 『学力向上に向けた取組』

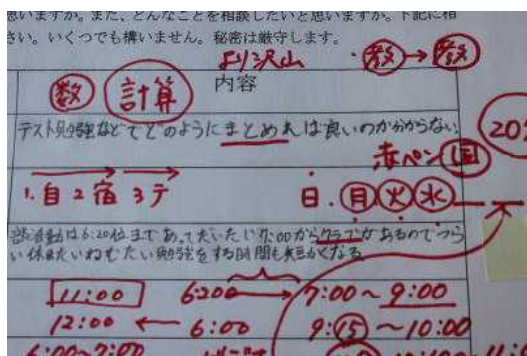
### 取組の内容

#### 1 集団の人間関係づくりを基盤とした『おもしろい・わかりやすい授業』の実践



- ① Q Uテストの結果を全教職員で共有する場を設け、よりよい集団作りのための研修会を開催した。
- ② 毎時間『本時のめあて』を明示し、生徒の立場に立った具体的な『めあて』になるように心がけた。
- ③ 『まとめ』の時間を確保し、気付いたこと考えたことを文章で表現させ、まとめるようにした。
- ④ 小グループや全体における意見交換の場を意図的に設定し、多様な意見があることに気付かせ、自他との比較により考えを深めさせるようにした。
- ⑤ 1クラス2グループに分けて補充的・発展的な学習を展開した。

#### 2 学び方の個別支援



- ① 『学習の手引き』の活用と手引きの要点をまとめた『学習の進め方』の計画的・継続的な活用している。
- ② 『学び集会』を開き、生徒会の劇・学習委員会から心構えや授業の受け方、家庭学習の進め方等について生徒主体の集会にした。
- ③ 『授業の約束8か条』の中の⑤発表ははっきり⑥話をよく聞く⑦進んで発表に焦点を当てた。生徒の発表力向上と聴く態度の向上を図った。

- ④ 生徒全員から『学習アンケート』を取り、学習を進める上での課題、問題点を具体的に書かせ、それに対して教師から具体的対応策アドバイスを加えることにより、その解決・改善を図った。

#### 3 全校一斉テスト、学年に応じた問題の一斉テストへの実施

本校には『学習意欲に乏しく、基礎学力が身に付いていない生徒が多い。』という実態がある。そこで、学習面において成功体験で自信を付けさせながら学習意欲と基礎学力の向上を図りたいとの考えから、平成19年度から25年度まで全校生徒が同じ問題に取り組む全校一斉テスト、平成26年度からは学年別の問題で一斉テストを年に3回実施している。

全校一斉テストのねらいは、以下にあげる3点である。

- ①基礎学力を身に付ける。②小さな成功体験から自信を付ける。③ 教え合い学習を推進する。

#### 4 学習マラソンの実施



定期テストの前後 30 日間、学習時間を毎朝記録させていただけなので、教師の負担も生徒自身の負担もほとんどなく、手軽に実施することができた。昨年度は『前回の自分より少しでも向上する自分』を意識させることをねらい、目標時間と目標点数の記入欄を付け加えた。今年度は学年目標(基準)を設定し取り組むことにした。

#### 5 生徒一人一人の実態を考慮した支援員の計画的・継続的な活用

課題解決が自力で困難な生徒に対しての支援策の一つとして、放課後、夏休み、冬休みを利用して空き教室で分からないところを個別に支援している。

### 成果と課題

- 『本時のめあて』を明示し、生徒が『何を学習するのか』がわかる授業の実践に教職員全員で同一步調で取り組むことができた。学習アンケート項目「どこが重要かわかるか」の質問では、8割以上の生徒が肯定的であった。
- 『学び集会』は、6年間継続して全校生徒対象に行っている。教師主導型を改善し、生徒主体の参加型集会にした。寸劇や学習相談、参考図書の紹介と視覚に訴えながら多角的・多面的に行ったことで、全校生徒の高い理解を得ることができた。
- 全校一斉テストを肯定的にとらえ、学力向上につながっているととらえている生徒が増加している。プレテストの実施や難易度を変えての実施が効果を上げている。
- 学習マラソンの実施から、『自分がどのくらい勉強しているのかが分かりもっと頑張ろうと思うようになった』、『仲間同士のライバル意識が芽生えて勉強時間が増えた』、『一目で勉強時間の足りない教科がわかる』等の感想が生徒からあがった。目標時間と目標得点を具体的に設定させたことが学習習慣の定着、学習意欲の向上、学習内容の効果的な見直しにつながっていると言える。
- 自主学習ノートの質の向上を図る必要がある。また、授業の中で考えをまとめる時間の確保や、目的に応じて考えを小集団で練り上げるなどの言語活動をさらに効果的に設定し、時間を確保することが必要である。
- 学習マラソンの集計結果から、家庭学習時間が増えていることがわかるが、まだ一夜漬けに近い学習が多いこと、テスト後の学習を疎かにしていること、総合的に見ると全国に比べてまだまだ学習時間が少ないことがわかる。目標をより具体的に設定させ、テスト後の復習の大切さを実感としてとらえらさせる手立ての工夫をしていきたい。
- 各教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動すべての教育活動において、全教師が同一步調で話し合い活動を意図的に十分設定し、よりよい集団作りをしいくことが大事になる。学年道徳や全校話合いについてもまだまだ回数が少ないと思われる。機会をさらに多くして人間関係づくりや表現力の育成に努めていきたい。
- 学級満足度において、本校では中1ギャップが見られることがわかった。2・3年生で改善している傾向はみられるが、今後、特に1年生への配慮や具体的な対応策が必要である。